

令和6年度日本博2.0事業（委託型）

WORLD THEATRE FESTIVAL SHIZUOKA

SHIZUOKAせかい演劇祭2025

会期：2025年4月26日[土]～5月6日[火・休]

会場：静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園 ほか

<完全版プレスリリース>



WORLD THEATRE
FESTIVAL
SHIZUOKA
SHIZUOKA せかい演劇祭

2025.4.26-5.6

静岡芸術劇場、舞台芸術公園、駿府城公園ほか

SHIZUOKAせかい演劇祭 2025

ロゴ・宣伝美術デザイン：阿部太一（TAICHI ABE DESIGN INC.）

[SHIZUOKAせかい演劇祭2025]

主催：SPAC-静岡県舞台芸術センター、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁
ふじのくに芸術祭共催事業



SHIZUOKAで様々な「せかい」に遭遇する

「せかいとつなぐ（⇔）」から、「せかいがある（＝）」へ――



■ 「SHIZUOKAせかい演劇祭」とは

2025年、SPACは財団設立30周年を迎えます。これまでの活動を通して磨き上げてきた「人」と「技術」を、今後はさらに企業やコミュニティと連携しながら、福祉・観光など地域の活性や課題解決に活用していきます。その最初の取り組みとして、毎年ゴールデンウィークに開催している演劇祭がリニューアル。名称を「ふじのくに⇔せかい演劇祭」から、「SHIZUOKAせかい演劇祭」と改め、演劇が日常に活力をもたらす“ハレの場”となることを目指します。最先端の舞台芸術作品の上演に加え、市街地でも様々なイベントを開催。演劇／役者の魅力がSHIZUOKAの街にあふれます。

■ SPAC (Shizuoka Performing Arts Center)

公益財団法人静岡県舞台芸術センター(Shizuoka Performing Arts Center : SPAC)は、専用の劇場や稽古場を拠点として、俳優、舞台技術・制作スタッフが活動を行う日本で初めての公立文化事業集団であり、舞台芸術作品の創造・上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的としています。1997年から初代芸術総監督鈴木忠志のもとで本格的な活動を開始。2007年より宮城聡が芸術総監督に就任し、更に事業を発展させています。演劇の創造、上演、招聘活動以外にも、教育機関としての公共劇場のあり方を重視し、中高生鑑賞事業公演や人材育成事業、アウトリーチ活動などを続けています。13年、全国知事会第6回先進政策創造会議により、静岡県のSPACへの取り組みが「先進政策大賞」に選出。18年度グッドデザイン賞を受賞、無形の活動が一つのデザインとして高く評価されました。

■ SPAC芸術総監督・宮城聡

MIYAGI Satoshi

1959年東京生まれ。東京大学で演劇論を学び、90年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。14年アヴィニョン演劇祭から招聘された『マハーバーラタ』の成功を受け、17年『アンティゴネ』を同演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演。アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。平成29年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。19年4月フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章。23年第50回国際交流基金賞受賞。



©加藤孝

PLAY!
WEEK
2025.4.26-5.6

■ 「PLAY!ウィーク」とは

「SHIZUOKAせかい演劇祭2025」では、国内外で注目の舞台作品を紹介することはもちろん、「ふじのくに野外芸術フェスタ」そして10周年を迎えるストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡」とともに、ゴールデンウィークを「PLAY!ウィーク」として、演劇／役者の魅力がSHIZUOKAの街にあふれ、演劇やそのエッセンスに誰もが触れることができるフェスティバルウィークを目指します。

期間後半の駿府城公園は、PLAYがあふれる「PLAY!PLAY!PLAY!ガーデン」に。SPAC新作野外劇『ラーマーヤナ物語』、そして「ストレンジシード静岡」のパフォーマンスやワークショップが各所に展開。静岡の豊かな「食」体験や『ラーマーヤナ物語』の“インド”をテーマにしたフード、また、県内でユニークかつ先端的な事業を生み出す企業の協賛によるアクティビティ「グリーンスローモビリティ体験」も登場します。（詳細は順次発表いたします。）

さらに俳優によるひと味違った“おもてなし”も加わり、訪れた皆さまに観劇に留まらない〈知る!〉〈体験する!〉〈遊ぶ!〉といった様々な「PLAY!」を提供します。

▶ 「PLAY!PLAY!PLAY!ガーデン」の詳細はp.13

自分を育てる養分

食べ物がないと人は死んでしまいますが、心の食べ物がないと精神が飢えてしまうことをコロナ禍で知りました。その「心の食べ物」のメインが文化とか芸術と呼ばれているものでした。

そこでコロナがあけてから、カルチャーの摂取が盛んになりました。舞台芸術界にとってもひとまずほっとする現象でした。

ただ、いつまでもこれでいいのかなと思う状況も生まれました。

それは・・・食べ物には「からだを維持するための栄養」と「からだを育てる（変化させる）ための栄養」があると思うのですが、心の食べ物も全く同じで、「心を維持するための栄養」と「心を育てる（変化させる）ための栄養」があると僕は思うのです。そしてコロナ禍という心の飢餓をしのぐためには「心を維持するための栄養」がなにはともあれ必要だったのは間違いありません。人間らしく生きる、その最低限を維持するために、「自分が好きなものを、なるべくたくさん摂取する」必要がありました。なのでコロナ禍あけの舞台芸術界には「もともと熱心なファンのいる」題材を舞台化するものが目立ちました。「自分が好きなものを、なるべくたくさん摂取したい」人々がいるのですから、それは需要に応える意味でも当然です。

ただ、と僕は思うのですが、あらかじめ自分はこれが好きと知っているものをよりたくさん摂取するのは、心を維持するための栄養であって、心を育てる（変化させる）ための栄養とは違いますよね。自分を安定させるためにまず維持が大切なのもっともなのですが、維持の次には育てる（変化させる）栄養もまぜてゆくのが、これまで人間の芸術に対する扱い方だったし、それによって、例えば社会全体で「美」とされるものの範囲が広がったり、また、ひとりの人の中でも、初めピンとこなかった作品がやがて響くようになる、という変化が起きたと思うのです。

さらに痛感するのは、最近の日本では、「自分を育てる」という「楽しみ」がどうも忘れられているんじゃないかということです。かたや「変化しないと生き残れないぞ」という脅迫は日本のあちこちから聞こえてきて、そのせいでかえって人々は「自分の心を維持すること」に必死になってしまいますが、変化というのは脅迫されてやるものじゃないでしょう。変化は、楽しいから、できるのではないのでしょうか。人生は「ガマンして生きる」には長すぎます。たぶん人生は楽しむべきものであって、それには「自分を育てるという、人生最大の（最長の）楽しみ」を携えるのがいちばんですよね。

自分を育てるための栄養、は、その効果がわかるのにちょっと時間がかかります。この春、SPACで、ぜひ「未来の自分の心の一部分」になる作品と出会っていただければと願っています。

宮城 聡

SHIZUOKAせかい演劇祭2025 上演全ラインナップ

▶ 会期：2025年 4月 26日[土]～5月 6日[火・休]

静岡芸術劇場

4月 26日[土]～29日[火・祝] 日本初演 演劇 <<<スイス

作・演出：ティアゴ・ロドリゲス

『〈不可能〉の限りで』 ▶p.6

5月 4日[日・祝]～6日[火・休] 日本初演 演劇 <<<フランス

作・演出：カロリーヌ・ギエラ・グエン

『ラクリマ、涙～オートクチュールのきらめき～』 ▶p.7

グランシップ 中ホール・大地

5月 2日[金] 新作 ダンス <<<日本

作・構成・演出・出演：小島章司

『叫び』 ▶p.8

舞台芸術公園

野外劇場「有度」

4月 26日[土]・27日[日] 再演 ダンス<<<フランス

演出・振付・出演：メルラン・ニヤカム

『マミ・ワタと大きな瓢箪』 ▶p.9

駿府城公園で同時開催！

ふじのくに野外芸術フェスタ 2025 静岡

駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

4月 29日[火・祝]～5月 6日[火・休] SPAC 新作 演劇 <<<日本

原作：ヴァールミーキ

構成・演出：宮城聡

『ラーマーヤナ物語』 ▶p.10



『〈不可能〉の限りで』 ©Magali Dougados



『ラクリマ、涙』 ©Jean-Louis Fernandez



“Compañía Internacional de Flamenco Shoji Kojima”
Festival de Jerez 2023 ©Ana Palma



『マミ・ワタ』 ©HIRAO Masashi



SPAC 『マダム・ボルジア』（2019年、駿府城公園）
©Y.Inokuma

ストレンジシード静岡2025 コアプログラム

▶ 会期：2025年5月3日[土・祝]～5日[月・祝]

駿府城公園 富士見芝生広場前

5月3日[土・祝]～5日[月・祝] 初来日 参加型インスタレーション <<<フランス

演出：オリヴィエ・グロステット

みんなでダンボール天守閣建築プロジェクト

『夢きものの造り手たち』 ▶p.11

駿府城公園 駿府城跡天守台発掘調査現場

5月3日[土・祝]～5日[月・祝] 新作 ダンス <<<日本

振付：中間アヤカ

『ブルーヴィ・グレイヴ』 ▶p.11

常磐公園

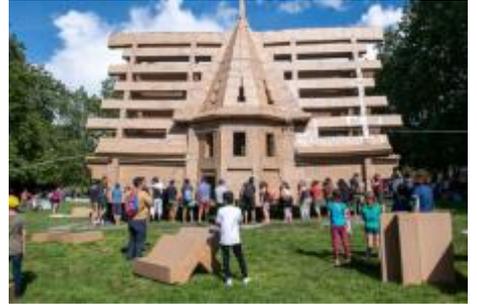
5月3日[土・祝]～5日[月・祝] 新作 パフォーマンス<<<日本

作・演出：大熊隆太郎

まつまつたてまつりまつり

『末待奉祭』 ▶p.12

イメージ画像



©KAWANISHI Saori

ほか [オフィシャルプログラム](#) / [オープンコールプログラム](#) (別紙／ストレンジシード静岡2025プレスリリース参照)

日本初演 演劇 <<<スイス

『〈不可能〉の限りで』

4月26日[土]・27日[日]・29日[火・祝] 各日 14:00 開演

4月28日[月] 18:30開演

会場：静岡芸術劇場

作・演出：ティアゴ・ロドリゲス

[全席指定席] 上演時間：120分（休憩なし）

フランス語・英語・ポルトガル語上演／日本語・英語字幕

製作：コメディ・ドゥ・ジュネーヴ

※中学生以上推奨

プレトーク：各回開演25分前よりカフェ・シンデレラにて



©Magali Dougados

紛争地帯で活動する者たちの孤独と葛藤、
世界の最前線がここに

ポルトガル出身で、フランス・アヴィニョン演劇祭史上、外国人で初めてディレクターに任命されたティアゴ・ロドリゲス。社会と演劇を繋ぐ革新的なプロジェクトを展開し国内外で高い評価を受けてきた彼が、赤十字国際委員会や国境なき医師団のメンバーらとの対話をもとに創作した話題作が来日を果たす。紛争地帯へ命がけで足を踏み入れ、苦しみや暴力に直面しながらも、人間の尊厳に触れる支援者たちの目に映る「世界」とは――

“不可能”な地域で人道支援に従事するいくつもの個の証言、ロドリゲスと俳優たちのアンサンブルが紡ぐ言葉で、彼らが抱える複雑な心情が浮き彫りとなる。

言葉によって立ち現れる物語、演劇の真髄に触れる

劇作家、演出家、俳優としてのキャリアを持つティアゴ・ロドリゲスは、演劇は常に人間の集会であり、カフェのように人々が集い、アイデアを共有し、ともに時間を過ごす場だと考えてきた。また、言葉を中心に据え、俳優に証言者の役割を担わせることで、観客に見せることができないもの、あるいは見えないものを想像させるスタイルは、私たちに演劇の本質へ立ち返らせる。本作では、社会を鋭く切り取った「ドキュメンタリー」を、洗練された舞台美術、力強く情感を伝えるパーカッションと、観客を見つめ「回想」を語る俳優たちの声によって叙事詩へと変貌させる。現実の苦しみと芸術の喜びとを双刃にする稀有な舞台が、テレビやインターネットでは伝えきれない世界を映し出す。

<あらすじ>

4人の俳優が舞台上で語るのは、“不可能”の世界で支援活動を行い、“可能”の世界にあるホームとを行き来をする者たちの葛藤。彼らは革命家でも、ヒーローでもない。語られる出来事に、地理的・歴史的な言及はなく、感傷的な情緒も道徳的な解釈に寄りかかるともない。ただ、彼らが直面する“不可能”な世界がドラマの演奏とともに静かに浮かび上がる。

ティアゴ・ロドリゲス Tiago Rodrigues

1977年ポルトガル・アマドラ生まれ。俳優、演出家、劇作家、プロデューサー。2022年よりフランス・アヴィニョン演劇祭のディレクターを務める。97年ベルギーの劇団tg STANで活動を開始。自由で対等な創作環境が作風に大きな影響を与え、03年には劇団ムンド・ペルフェイト（完璧な世界）を設立。以後、20カ国以上で30以上の作品を創作・上演し、国際的な評価を得る。15年にはリスボンのポルトガル国立マリア2世劇場の芸術監督に就任。劇場の刷新に取り組み、社会と演劇を繋ぐ革新的なプロジェクトを展開した。19年フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受勲。同年、ポルトガルで最高の芸術賞プレミオ・ペソアを受賞するなど、国内外で高い評価を受けている。実話とフィクションの融合、古典の再解釈を通じて、現実を詩的に変容させる演劇世界を追求し続けている。



©Filipe Ferreira



日本初演 演劇 <<<フランス

『ラクリマ、涙 ～オートクチュールのきら燦めき～』

5月4日[日・祝] 16:00開演・5日[月・祝] 13:00開演

6日[火・休] 12:30開演

会場：静岡芸術劇場

作・演出：カロリーヌ・ギエラ・グエン

[全席指定席] 上演時間：175分（休憩なし）

フランス語・タミル語・英語・フランス手話上演／日本語・英語字幕

製作：ストラスブール国立劇場

※高校生以上推奨

プレトーク：各回開演25分前よりカフェ・シンデレラにて



©Jean-Louis Fernandez

夢が詰まった美しきオートクチュールの世界——

名もなき職人たちの知られざる物語

2025年、英国王妃のウェディングドレス製作という壮大なプロジェクトが始動する。その夢のようなオファーを受けた、フランス・パリの名門メゾン・ベリアナ。アランソンのレース工房、そしてインド・ムンバイの刺繍工房と協働し、厳格な守秘義務のもと何千時間にも及ぶ作業の末、歴史を刻む運命のドレスは生み出される。実際の作業場に潜入したかのような巧みな空間構成で、オートクチュール業界の秘めたる製作過程が明るみとなっていく。華やかな世界を支える職人たち一人一人の「小さな手」が結ぶ縫い目には一掬の涙が閉じ込められている。

フランス演劇界の新たなる旗手、カロリーヌ・ギエラ・グエンの挑戦作

2023年にストラスブール国立劇場の芸術監督に就任し、今話題の演出家カロリーヌ・ギエラ・グエン。フランスの国立劇場で唯一の女性芸術監督であり、ベトナムとインドにルーツを持つ彼女は、社会問題をテーマに、個人の記憶と集団の歴史を織り交ぜた作品を生み出してきた。ダイアナ妃のドレス製作秘話を着想に、レース職人や刺繍職人たちとの交流を経て構築された本作は、ストラスブール国立劇場で手掛けた初の作品。舞台裏の職人たちの姿を「秘密」といテーマで鋭く描き、作り出される美の背後に潜む暴力や支配の構造を解き明かす。実在性を重視した演出で、現代社会の陰影が鮮やかに照らし出されていく。

<あらすじ>

パリの名門メゾン・ベリアナのアトリエ主任マリオンは、英国王妃のウェディングドレス製作を任される。アランソンでは伝統レースを、インド・ムンバイでは刺繍を施す作業を、困難に立ち向かいながら8か月をかけて完成を目指す。職人たちの比類なき技術と秘められた苦悩が交錯する中、マリオン自身も家族関係や仕事のプレッシャーに揺れている。果たして、この歴史的なドレスは無事に完成するのだろうか？

カロリーヌ・ギエラ・グエン Caroline Guiela Nguyen

1981年、フランス・ボワシー生まれ。作家、映画監督、演出家。Les Hommes Approximatifs主宰。2023年9月よりストラスブール国立劇場（TnS）のディレクターを務める。現実を忠実に映しながら、フィクションの力を用いて社会問題を描く作風が特徴。Les Hommes Approximatifsでは、見過ごされがちの人々に焦点を当て、プロ・非プロを問わない俳優と新たな物語を共同創作している。17年、アヴィニョン演劇祭で初演され、ベトナム人移民とフランスの植民地史の惨劇を絡めた『SAIGON』は、中国、オーストラリア、ベトナムなど15か国以上で上演され話題を呼んだ。また、刑務所内で撮影された、映画『Les Engloutis』を制作するなど多岐にわたる活動を展開中。



©SMITH

INSTITUT
FRANÇAIS

新作 ダンス <<<日本

『叫び』

5月2日[金] 14:00開演

会場：グランシップ 中ホール・大地

作・構成・演出・出演：小島章司

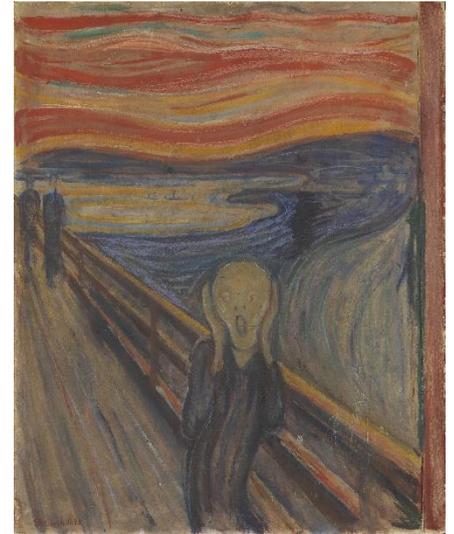
音楽：チクエロ

[全席指定] 上演時間：60分（休憩なし）

製作：株式会社エストゥディオ コジマ

人間は叫ぶ。大声で 小声で 目で 心の中で。

2016年ノルウェーの首都オスロのオペラハウスのリハーサルルームで、公演に向けてのリハーサルに明け暮れる日々を過ごしていた。その間隙について郷土の誇る画家エドヴァルド・ムンクの『叫び』を共演者たちと共に観に行った。《生と死への不安感》が強烈に反映され、内なる叫びを強く放つその作品に触れ、胸がざわついた記憶がよみがえる。



エドヴァルド・ムンク『叫び』（1893）

『叫び』は『沈黙』があってこそその言葉である。

今までどれほどの『叫び』を聞いただろうか。その反対の『ささやき』や『吐息』も入り交じって迫りくるフラメンコの深淵を垣間見る時間が、どれ程私の舞踊人生に深く染み入ったことか。それは私がフラメンコを創造のテリトリーとして選んだ大きな道義となっている。カラコル、マイレーナ、パケラ、カマロン、フェルナンダ、チョコラーテ……私の魂を奪った《叫び》声。

私の心に刻印された先人たちの叫びや甘い囁きをもう1ページ綴ってみたい。「愛と死」や「不安」、芸術家たちの辿る苦悩の道程、日常に溢れる違和感や不条理をありったけに叫ぶ、それは《今》なのだ。

"Compañía Internacional de Flamenco Shoji Kojima"
Festival de Jerez 2023 ©Ana Palma

— 小島章司

小島章司 KOJIMA Shoji

1939年徳島県生まれ。武蔵野音楽大学声楽科在学中にフラメンコと出会う。66年にスペインへ渡り、国立舞踊団等で活躍。76年の帰国後は独創的な作品を次々と発表し、毎年世界各地で公演を行い、85歳の現在もなお現役のフラメンコダンサーとして活動を続けている。

2023年度公演『美は涙の海から』は朝日新聞〔回顧2023舞踊部門〕にて、舞踊評論家・石井達朗氏〔私の3点〕に選ばれ高い評価を受ける。また、ダンス・マガジン誌バレエ年鑑2024において、[もっとも印象に残っているダンサー]として舞踊評論家・石井達朗氏、うらわまこと氏、國吉和子氏より選出。最新の国内公演である2024年度『蒼茫』では同誌年鑑2025同部門に、読売新聞編集委員・祐成秀樹氏により選出される。SPACではこれまでに、13年にソロ作品『生と死のあわいを生きて一フェデリコの魂に捧げる一』にて演劇祭に初参加し絶賛された。18年にはアルゼンチン出身のコンテンポラリーダンサーと共演した『シミュレイクラム／私の幻影』を日本初演。

主な国内での受賞歴：第50回芸術選奨文部大臣賞（舞踊部門）、紫綬褒章、旭日重光章、文化功労者に選出 他



再演 ダンス <<<フランス

『マミ・ワタと大きな瓢箪』 ひょうたん

4月26日[土]・27日[日] 各日18:30開演

会場：舞台芸術公園 野外劇場「有度」

演出・振付・出演：メルラン・ニヤカム

[全席自由] 上演時間：40分（休憩なし）

製作：ラ・カルバス・カンパニー

ダンス？儀式？

摩訶不思議なニヤカムワールド、 今年は野外で！

カメルーンで生まれ、パリで大人気のダンサー・振付家であるメルラン・ニヤカムが、アフリカの神話にもとづく摩訶不思議な世界を踊る。昨年の演劇祭で上演され、子どもも大人もとりこにするエネルギーに満ち満ちたダンスは再演を望む声も多く、今年は木々に囲まれた野外劇場に登場する。ニヤカムは、2010年より「スパカンファン (SPAC-ENFANTS)」を振り付け、日本の文化からもインスピレーションを受けたアフロ・コンテンポラリーダンスが毎回好評を得ている。アフリカの土着的な伝統を受けながら、普遍的な神秘を体現する今回のソロ・パフォーマンス。宇宙へとつながる野外の舞台上で、女神マミ・ワタが舞う。さあ、お立ち合い！



©Y.Inokuma

<あらすじ>

長い髪を持つ海の女神、マミ・ワタ。やさしく、魅惑的な存在だが時に冷酷でもある。その素晴らしい髪からニヤカムは中性的なキャラクターを立ち上げ、踊り、歌い、演じ、変身をくり返ししながら私たちを宇宙へと誘う…。

メルラン・ニヤカム Merlin Nyakam

振付家、ダンサー、歌手、俳優、ラ・カルバス・カンパニー主宰 (Compagnie La Calebasse)。14歳でカメルーン国立バレエ団に入団。16歳で主席ダンサーとなる。1990年にラ・カルバス・カンパニーを立ち上げ、91年金の穂賞、最優秀ダンサー賞などを受賞。92年よりフランスに拠点を移し、同国で絶大な人気を誇るモンタルヴォ・エルヴェ・カンパニーなどの作品に出演するほか、振付家としても活躍。SPACでは、2010年より「SPAC-ENFANTSプロジェクト」を手がけ、『タカセの夢』(2011年初演)、『Reborn—灰から芽吹く—』(2022年初演)などを創作するほか、自身振付の『遊べ！はじめ人間』(2007、08年/Shizuoka春の芸術祭)、『ダンシング・アフリカ ~メルラン・ニヤカム 太陽のステップ~』(15年/ふじのくに野外芸術フェスタ2015)、『マミ・ワタと大きな瓢箪』(24年/ふじのくにせかい演劇祭2024)を上演。25年夏にはSPAC-ENFANTS-PLUSの新作公演を予定している。



©Rakkana Poulard

同時開催 ふじのくに野外芸術フェスタ2025静岡

SPAC新作 演劇 <<<日本

『ラーマーヤナ物語』

4月29日[火・祝]・5月2日[金]・3日[土・祝]

4日[日・祝]・5日[月・祝]・6日[火・休]

各日 18:45 開演

会場：駿府城公園 紅葉山庭園前広場 特設会場

原作：ヴァールミーキ

構成・演出：宮城聰

作曲：寺内亜矢子／選曲：宮城聰

[全席指定] 上演時間：90分（予定）

日本語上演／字幕あり（詳細は後日発表）

製作：SPAC-静岡県舞台芸術センター



©Y.Inokuma

出演：美加理、本多麻紀、池田真紀子、内山怜菜、大内米治、大高浩一、蔭山ひさ枝、加藤幸夫、木内琴子、貴島豪、小長谷勝彦、桜内結う、佐藤ゆず、杉山賢、鈴木まり、大道無門優也、たきいみき、武石守正、館野百代、保可南、ながいさやこ、西出一葉、藤見花、牧山祐大、三島景太、宮城嶋遥加、山崎皓司、山本実幸、吉植荘一郎、渡邊清楓

照明デザイン：大迫浩二

舞台美術デザイン：深沢襟

衣裳デザイン：清千草

音響デザイン：澤田百希乃

ヘアメイクデザイン：梶田キョウコ

演出補：中野真希

技術監督：村松厚志

舞台監督：菟川幸雄

演出部：杉山悠里、土屋克紀

照明：小早川洋也

小道具・美術担当：佐藤洋輔、森正吏

ワードローブ：牧野紗歩

ヘアメイク：高橋慶光

字幕・演出助手：大石多佳子

インターン：ジャンル・リアビ

制作：久我晴子、大石多佳子

宮城聰×SPACの新たな冒険譚、古代インドから駿府城公園に降臨！

仏アヴィニョン演劇祭で喝采を浴び、歌舞伎版でも熱狂を巻き起こした『マハーバーラタ』に続き、宮城聰が新たに舞台化するの古代インド 2大叙事詩として双璧を成す『ラーマーヤナ』。さらわれたシーター姫を奪還すべく、王子ラーマが10の顔を持つ魔王ラーヴァナに挑む冒険譚は、口伝ならではの見せ場に次ぐ見せ場で古来人々を魅了し続けてきた。夕刻、駿府城公園の野外舞台を囲み物語は始まる。SPACの俳優、総勢30名が立ち上げる超人的なキャラクターや動物たちが縦横無尽に駆け巡り、舞台に配した仕掛けを展開しながら手に汗握る冒険に観客を巻き込んでいく。果たして英雄ラーマとシーター姫の行く末やいかに？！

人づてに編まれた物語が、善悪を超え遙かな時空へと誘う。

ラーマ（ラーマの）ヤナ（足跡）を伝える物語は、紀元前数世紀来の口承文芸を詩人ヴァールミーキが編纂し、2世紀頃に成立したと言われる。ラーマは宇宙を維持する神・ヴィシュヌの化身と崇められ、ラーマを助ける猿神ハヌマンは孫悟空のモデルとも言われるなど、物語はアジア各地の信仰や文学、そして民衆文化にも深く入り込み、心の故郷として今に息づいている。アジア地域の演劇からもさまざまなインスピレーションを得て作品に昇華させてきた宮城は、本作を「アジア演劇への回帰」とし、広場に集い興じる芝居の原初のダイナミズムをその場に沸騰させていく。時に善と悪は渾然一体となり、長い年月をかけ人づてに編まれた物語は、複雑化した世界を縫合する秘薬（トゥルシー）となる。

ストリートシアターフェス

ストレンジシード静岡2025

5月3日[土・祝]、4日[日・祝]、5日[月・祝]

会場:駿府城公園、青葉シンボルロード、常磐公園など静岡市内

観覧無料 ※一部予約制・有料の場合あり



なんだ？なんだ？なんだ？

まちの景観だけでなく、音・風・観客までもパフォーマンスに取り込んで、強力な磁場を発生するように、ストリートシアターは人々を惹きつける“場”をつくります。そこに出くわした人は、異様な光景に「なんだこれ？」と思わず口に出してしまうかもしれません。そう、未知との遭遇を生み出すのがストリートシアター。

フェスティバルディレクター：ウォーリー木下 / プログラムディレクター：若林康人 / イラスト：しりあがり寿

ストレンジシード静岡2025／コアプログラム

参加型インスタレーション<<<フランス

みんなでダンボール天守閣建築プロジェクト 『働きものの造り手たち』

5月3日[土・祝] 10:00-18:00 建築

4日[日・祝] 10:00-18:00 展示

5日[月・祝] 10:00-14:30 展示 / 15:00解体

会場：駿府城公園 富士見芝生広場前

演出：オリヴィエ・グロステット

[予約不要 / 観覧無料] 日本語・フランス語・英語



ダンボールの天守閣が駿府城公園に現れる！？

世界各地の建築物をダンボールで製作するフランスのアーティスト、オリヴィエ・グロステット。初来日の彼が、徳川家康ゆかりの地である駿府城公園で、来場者と一緒にダンボール天守閣を建築。使用するものはダンボール箱とテープのみ。初日の「建築」から最終日の「解体」まで、大人も子どもも誰でも参加できる参加型インスタレーション。



ダンス<<<日本

『グルーヴィ・グレイヴ』

5月3日[土・祝]、4日[日・祝]、5日[月・祝] 各日17:10開演

会場：駿府城公園 駿府城跡天守台発掘調査現場

振付：中間アヤカ

製作：中間アヤカ 上演時間：約60分



駿府城の発掘調査現場でダンス？

ダンサー・中間アヤカが、舞踏家・今貂子、俳優・山田航大、アンサンブルダンサーたちと共に、駿府城跡に立ち上げる作品を目撃せよ。『グルーヴィ・グレイヴ』は、神戸を拠点に国内外で活動するダンサー、中間アヤカによる新作ダンス作品。本作は、身体の終焉とその空間に対する理想がテーマである。舞台となるのは、駿府城天守台の発掘現場。時代のうねりの中でその姿形を変容させ続けてきたこの場所で、この壮大なテーマはグルーヴィな時空間を現象させるダンスとして現れることになる。出演者には公募で集まったアンサンブルも参加。彼らの多様な身体表現が「過去と現在」「自分と他者」を繋ぐその瞬間、今を生きる観客の身体もまたこの場で立ち上がる現象を共に担うことになるだろう。

パフォーマンス<<<日本

まつまつたてまつりまつり 『末待奉祭』

5月3日[土・祝] 12:20／16:10開演

4日[日・祝] 12:00開演 ・5日[月・祝] 12:20／16:10開演

会場：常磐公園

作・演出：大熊隆太郎

製作：大熊隆太郎／壱劇屋 上演時間：約40分（休憩なし） 日本語上演／字幕なし



©KAWANISHI Saori

まちなかでオールスタンディング演劇？

前人未到の没入型オールスタンディング演劇が静岡のまちに現れる！？ストリートシアターの可能性を拡張する演出家、大熊隆太郎率いる壱劇屋が挑む。日本には八百万の神がいた。路傍の石やアスファルトに咲く小さな花にも神が宿っていた。ある公園に古くから在わす松にも神が宿っていた。しかし松は粗末に扱われ、公園の岩の中へ隠れてしまう。松明の灯りが消えゆき、その他の神々は困り果ててしまう。そこで神々は歌い踊り音楽を掻き鳴らし、松の神が出てくるのを待つのがあった。日本の神話である『天岩戸伝説』を元に壱劇屋がパントマイムやラップなどのパフォーマンスを交え、更には観客も巻き込んで上演するオールスタンディング演劇。

関連企画

◎PLAY! de お茶摘み体験&

ストーリー・テリング・ウォーク（舞台芸術公園）

4月27日[日]

【お茶摘み体験】9:30～11:30

参加費：一般1,000円、高校生以下500円、未就学児無料

【ストーリー・テリング・ウォーク】13:30～14:30

参加費：一般2,000円、高校生以下500円

集合場所：舞台芸術公園 ミニミュージアム「てあとろん」

要予約

協力：ChaChaCha

お茶摘み体験には、
スペシャルゲストとして
ニヤカムさんが参加！
茶摘み唄を歌い、
アフロダンスでリフレッシュ。

◎フェスティバルcafe&bar（舞台芸術公園）

4月26日[土] 16:00～22:00 / 27日[日] 11:00～22:00

演劇祭前半、舞台芸術公園せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」がアーティストと観客が出会うコミュニティスペースに。

プロデューサー：株式会社オフィススノド 代表 柚木康裕



©MAKITA Natsumi(F4,5)



©MAKITA Natsumi(F4,5)

PLAY!PLAY!PLAY! GARDEN

■5月3日～6日は駿府城公園に〈PLAY!PLAY!PLAY!ガーデン〉がOPEN

駿府城公園では、世界中の演劇ファン大注目のSPAC野外劇『ラーマーヤナ物語』のほか、「ストレンジシード静岡」の“なんだ？”なお芝居やダンス、音楽や工作を楽しんだりできるワークショップなど、さまざまな〈PLAY!〉があちこちで繰り広げられます。さらに、静岡ならではのおいしい食体験や、県内のユニークで最先端な企業によるおもしろい乗り物やロボットも登場。そして、SPACの俳優たちが、特別なおもてなし《グリーティング》で迎えてくれる、演劇のテーマパークです。

◎ガストロノミー広場

5月3日[土・祝]～6日[火・休] 11:00～18:30（駿府城公園）

地ビールや地元食材を使用したフードなどを取りそろえたコミュニティスペース。
コーディネーター：スノドカフェ代表 柚木裕康
協力：一般財団法人静岡新食文化機構



©MAKITA Natsumi(F4,5)

◎グリーンスローモビリティ体験

Let's PLAY! 今後さらなる活用が期待される次世代電動パーソナルモビリティが駿府城公園に登場！人とモビリティが行き交う近い未来の公園をぜひ体感してください。

登場するモビリティ（一例）

●静岡スバル自動車株式会社／WHILL株式会社 WHILL

「すべての人の移動を楽しくスマートにする」電動モビリティ
5月3日[土・祝]～5日[月・祝] 各日11:00～17:30（予定）



©MAKITA Natsumi(F4,5)

静岡スバル  WHILL

◎SPAC俳優によるグリーティング

5月3日[土・祝]～6日[火・休]

SPAC俳優のひと味があった手法で来園者をおもてなし。
インタラクティブなコミュニケーションをお楽しみください。
演出・プロデュース：bale（ベイブル）
グリーター：石井萌水、鈴木真理子
ゲストピアニスト：大浦史記



グリーティングイメージ

◎広場トーク in ガストロノミー広場

5月3日[土・祝] 15:30～16:30（予定）

駿府城公園の開放的な空気のもと、アーティスト・論客たちが自由に語り合います。
※登壇者・トークテーマは決定次第、特設サイトにて発表いたします。

チケット情報

★全て税込み

SPACの会会員先行予約開始 3月15日[土]10:00 / 一般前売開始 3月22日[土]10:00

チケット料金	作品タイトル		『〈不可能〉の限りで』 『ラクリマ、涙』 『叫び』	『マミ・ワタと 大きな瓢箪』	『グルーヴィー・ グレイヴ』 『未待奉祭』
	チケット券種	『ラーマーヤナ物語』			
一般		7,000円	7,000円	4,600円	3,000円
SPACの会 一般		5,900円	5,900円	3,900円	2,500円
静岡県民割引		5,000円	—	—	—
U25・大学生・専門学校生		3,400円	3,400円	2,200円	—
高校生以下		1,700円	1,700円	1,100円	1,100円
小学生以下		—	—	無料・要予約	—
障がい者割引		4,900円	4,900円	3,200円	—

『夢きものの造り手たち』チケット販売はございません。（予約不要・観覧無料）

※各種割引を組み合わせるとのご利用はできません。割引をご利用の際は、必ずご予約時にお知らせください。

2025年度 SPACの会 個人会員募集中！ 個人会員…¥12,000（税込）

先行予約や割引のほか、SPACの年間ラインナップから3回公演にご招待などのお得な特典が盛りだくさん！
演劇祭では、『マミ・ワタと大きな瓢箪』が特典招待枠対象公演となります。

チケット購入方法

電話予約 SPACチケットセンター TEL：054-202-3399（受付時間10:00～18:00／休業日を除く）

ウェブ予約 <https://festival-shizuoka.jp>

窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター（受付時間10:00～18:00／休業日を除く）

当日券 残席がある場合のみ、各公演会場の受付で販売します。

※当日券の有無は、公演当日にお電話もしくはSPAC公式サイトでお確かめください。

SUPPORT

<https://festival-shizuoka.jp/support/>

渡航費・運搬費の高騰や、為替レートなど、経済的な環境が厳しさを増す中、演劇祭をより多彩で持続可能な国際演劇祭へと発展させるため、SHIZUOKAせかい演劇祭では皆様からのご支援を募集しています。

フェスティバル・パートナー 1口100,000円

お礼：演劇祭全演目に1口につき1名様ご招待、アーティストとの交流会へのご招待 ほか

ポスター☆応援 1口5,000円

お礼：演劇祭ポスター（非売品・数量限定）をプレゼント ほか

*詳細は演劇祭特設サイトをご確認ください。

アクセス

ゴールデンウィークの日中は、渋滞や公共交通機関の混雑が予想されますので、時間に余裕をもってお越しください。

静岡芸術劇場・グランシップ（静岡市駿河区東静岡2丁目3-1）

JR「東静岡駅」南口から徒歩約5分。

電車 ◎最寄りのJR「東静岡駅」は、JR「静岡駅」より東海道本線（沼津・熱海方面、上り）で約3分。
◎静岡鉄道「長沼駅」から徒歩約12分。

自家用車 ◎JR「東静岡駅」南側のグランシップ一般駐車場をご利用ください。
※駐車料金は劇場内の精算機をご利用いただくと1時間100円になります。

舞台芸術公園（静岡市駿河区平沢100-1）

バス 無料チャーターバス、または路線バスをご利用ください。
※舞台芸術公園バスロータリーから各劇場へは徒歩5～10分です。

自家用車 ◎東名高速道路清水ICから車で約30分、静岡ICから約30分、日本平久能山スマートICから約15分。
静清バイパス千代田上土ICから約25分。
◎日本平動物園より日本平方面へ1.8キロ先、左手の舞台芸術公園内の駐車場をご利用ください。

お願い 舞台芸術公園内の駐車場は台数に限りがございます。自家用車でお越しのお客様は、グランシップ一般駐車場等に駐車のうち、無料チャーターバスのご利用をおすすめいたします。

駿府城公園（静岡市葵区駿府城公園1-1）

電車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約15分。 ◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約12分。

バス ◎駿府浪漫バス「東御門」下車。 ※JR「静岡駅」北口10番のりばから約15分。

自家用車 ◎「静岡市民文化会館前駐車場」（地下駐車場・有料）及び周辺駐車場をご利用ください。

常磐公園（静岡市葵区常磐町3-1）

電車 ◎JR「静岡駅」北口から徒歩約13分。 ◎静岡鉄道「新静岡駅」から徒歩約13分。

お問い合わせ

SPACチケットセンター **054-202-3399**（10:00～18:00／休業日を除く）

◆「SHIZUOKAせかい演劇祭2025」の最新情報は・・・

SPAC公式サイト、演劇祭2025特設サイトにて、随時お知らせいたします。

演劇祭特設サイト <https://festival-shizuoka.jp>

SPAC公式サイト <https://spac.or.jp>

◆「PLAY! ウィーク」の最新情報は・・・

PLAY! ウィーク特設サイトにて、随時お知らせいたします。

PLAY! ウィーク特設サイト <https://play-shizuoka.jp>

X @_SPAC_ / **f** SPACshizuoka / **i** @spac_shizuoka / **YouTube** @spac_shizuoka

LINE 公式アカウント @spac_shizuoka / **TikTok** @spac_shizuoka



ポッドキャスト始めました！
「ランチタイム with SHIZUOKAせかい演劇祭」で検索。

SPAC-静岡県舞台芸術センター

〒422-8019 静岡県静岡市駿河区東静岡2丁目3-1 TEL：054-208-4008（舞台芸術公園） FAX：054-203-5732

SPAC公式サイト：<https://spac.or.jp>

E-mail：koho@spac.or.jp [広報担当共通アドレス] 広報担当：坂本彩子、計見葵、西村藍、佐藤美咲